都市部・都市近郊・地方の事業展開

コロナの時代をどのように乗り切るか

共生社会グループ

2020年11月

社会的課題

環境・孤立・貧困

１．コロナと社会的弱者の課題

①行く場所がない
②ひきこもり
③外出制限で認知機能低下　老年医学会調査
④フレイル予防の取り組みが進まない
⑤行政の講座が縮小
⑥ボランティアが中断
⑦ケアの仕組みが不十分
⑧看取りの場所がない
⑨家賃の低い安心の住まいが少ない

２．コロナの課題をどのように乗り切るか

①家賃の安い終のすみか
　（セイフティネット住宅）
②仕事をつくる（雇用）
③孤立を防ぐ（居場所）
④介護や認知症になっても安心の仕組み
　（地域包括ケア）
⑤フレイルを予防する仕組み（介護予防）
⑥空き家オーナーの安心（信用力）

3．めじろ台団地への提案

1．駅前の商店街の活用

①空き店舗を借りる。

②店舗の多いコミュニティ」と位置付ける。

③子供、高齢者、障がい者、シングルマザーのケアとたまり場と仕事場

④シェアオフィス

2．住宅地の活用

①下宿、シェアハウス

②サービス付き住宅、セイフティネット住宅

③グループホーム、デイサービス

3．団地の周辺の広域の地域

①多世代多文化の多文化の生活の場

4．集会所

①リフォーム、増築

②コミュニティの拠点づくり

５．事業の進め方

①めじろ台協議会と並行して、事業化推進委員会で事業化を推進する。

②事業化推進協議会は事業者の集まりとする。

③将来の急激な少子高齢社会を予測して、その対応をする。

④都市部の23区の課題解決と、二地域居住と移住を推進する。

2．単一機能型から、多様な機能の混在型とする。

①多様な機能の混在型が団地の魅力を生み、団地の価値を高める。

②生活の変化と住み替え等に対応できる。

３．松ケ谷団地との連携

①講演、セミナー等をインターネットを通じて連携する。

②松ケ谷団地での様々な社会実験を活用する。

③団地プロデューサー

共生社会グループの理念と組織

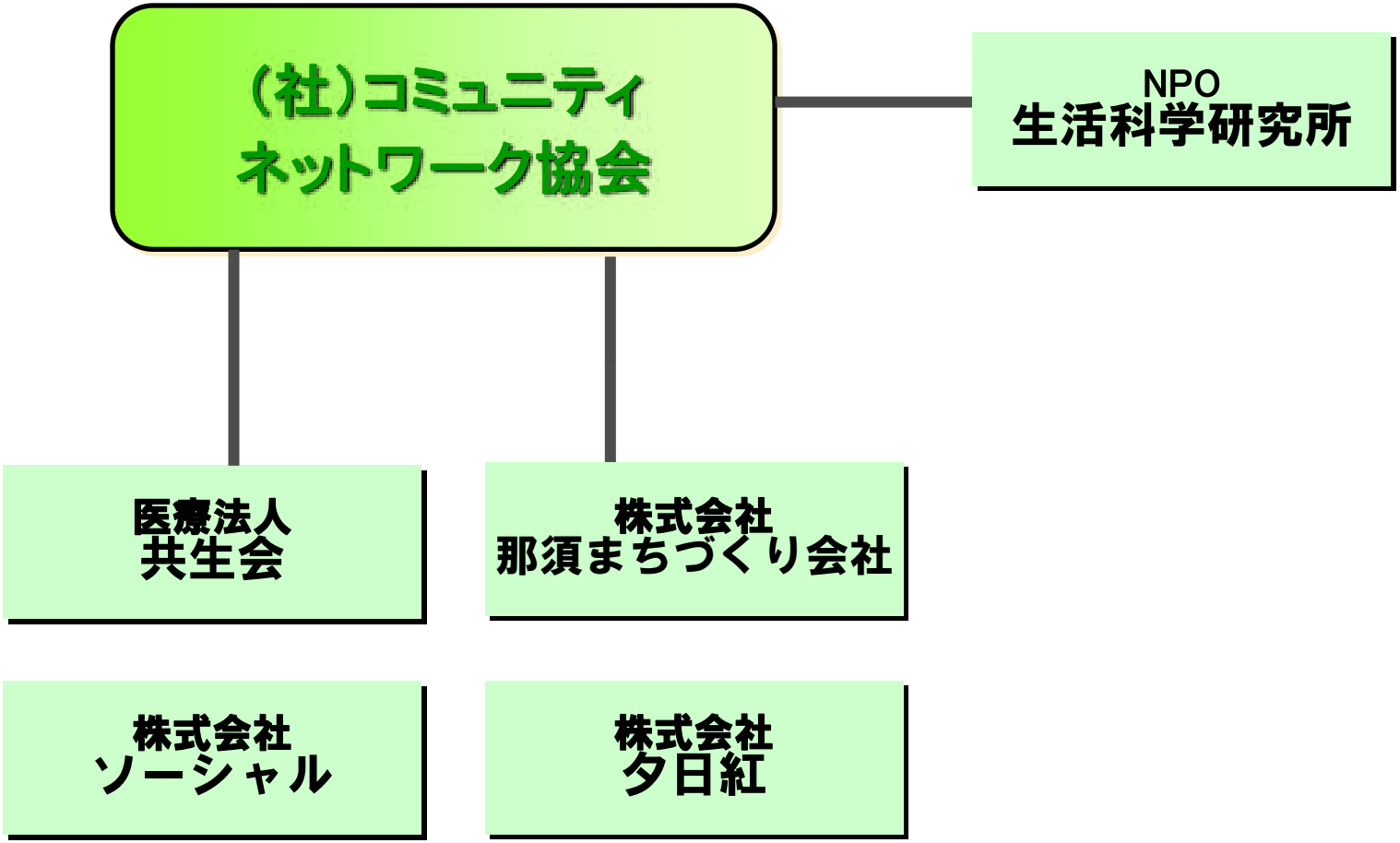
1．設立と経過

1983年、名古屋に任意団体として誕生し、女性、子ども、高齢者の視点から心のびやかに人間らしく生きていくにはどうしたらよいかを、会員と共に研究し提案し、実践してきました。その活動は女性の再就職セミナーに始ま
り、生き方や住まい方を考えるセミナーや講演会などを実践するうちに、老後も安心して暮らせる住宅を建設したいという気運が高まってきました。

神戸の震災復興後にコミュニティネットワーク協会が誕生

神戸の震災の復興にコミュニティによる相互支援が大きな力を発揮しました。その後、各地にコミュニティの拠点をつくるための情報・相談・事業支援のネットワーク活動が始まりました。
・少子高齢社会・地域再生・ふるさと暮らしの視点で進めています。地域プロジューサーの育成が進んでいます。
創業者の高橋は生活科学運営の経営を若手に継承し、現在はコミュニティネットワーク協会の副理事長をしています。

2．共生社会グループ


（社）コミュニティ
ネットワーク協会
NPO
生活科学研究所
医療法人
共生会
株式会社
那須まちづくり会社
株式会社
ソーシャル
株式会社
夕日紅

３．高齢者住宅・ふるさと暮らし情報センター

相談

●入居相談
●生活設計
●介護相談
●いきがい
●遺言
●その他

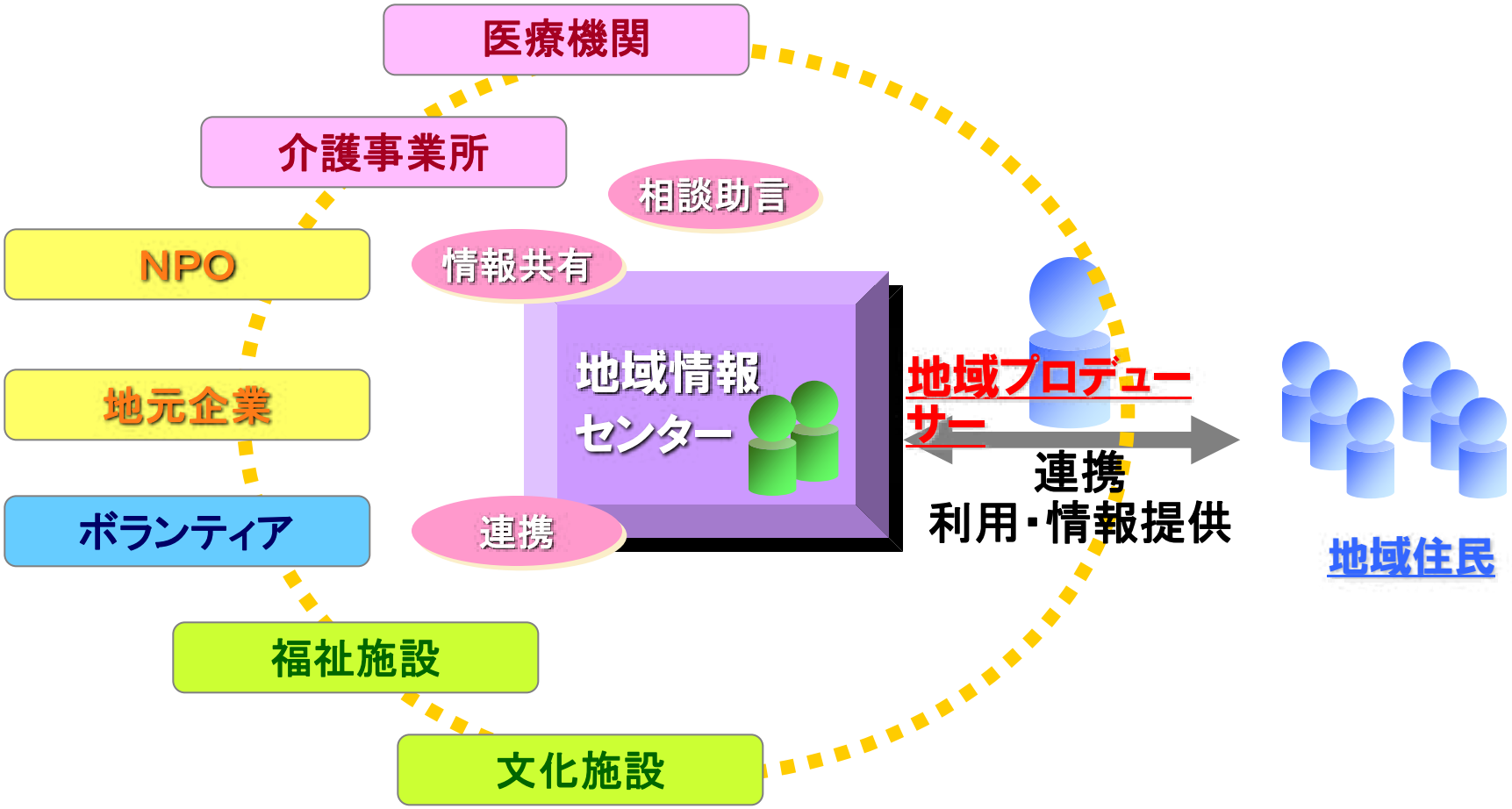
学習

●勉強会
　高齢者住宅について
　介護のあり方
　ふるさと暮らし
　成年後見制度　他
●セミナー、フォーラム
●その他

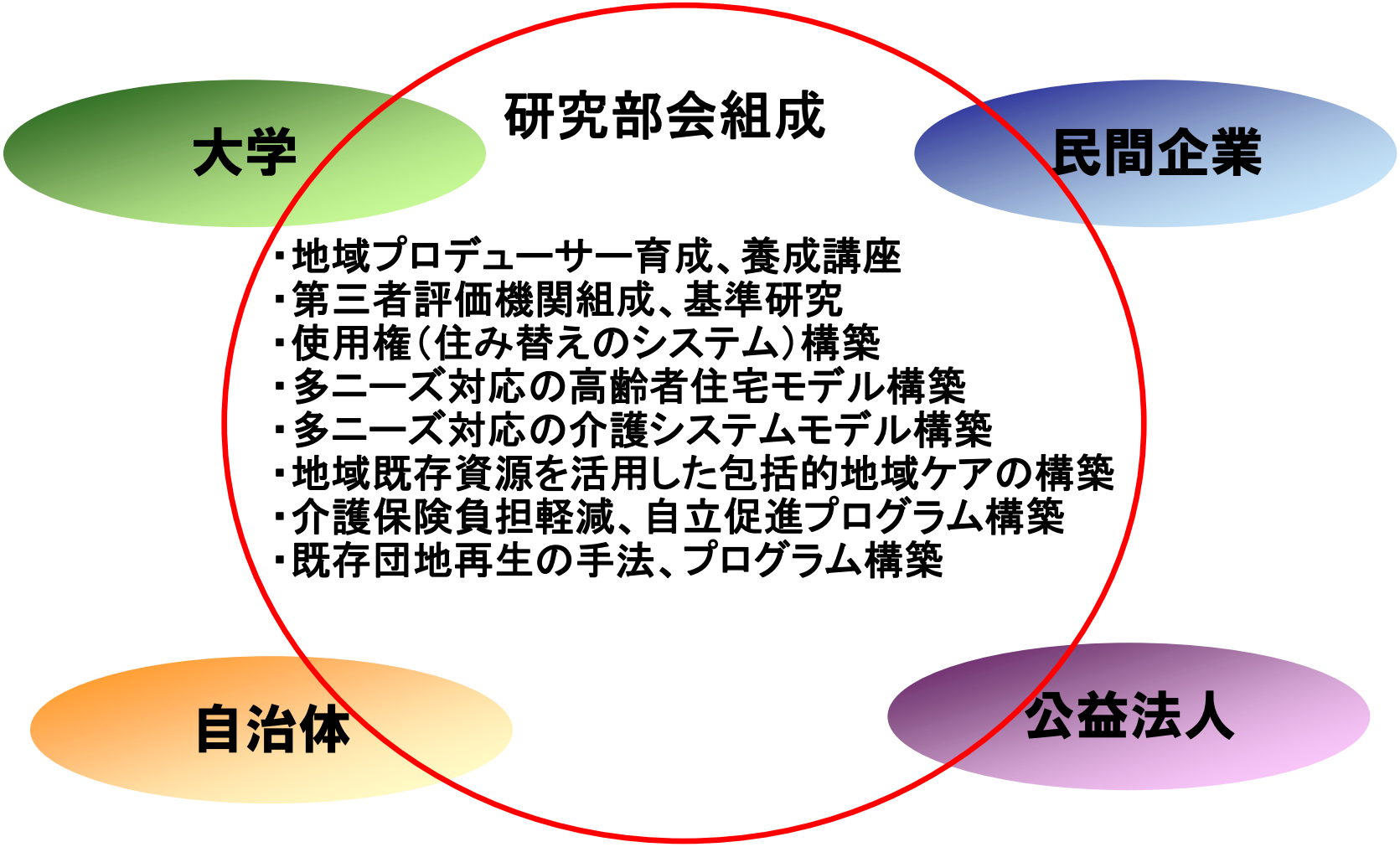
交流

●情報交換
●懇親会
●見学会
●その他

4．地域プロデューサーの役割



5．福祉とまちづくり事業



これまでの実績

１．　３３ヶ所のコミュニティ⇒その１

1986年４月　:シニアハウス紅梅開設
1987年３月　:ウィール檀渓開設
1988年４月　:シニアハウス新町開設
1988年11月　:シニアハウス瑞豊開設
1990年12月　:シニアハウス江坂開設
1991年８月　:シニアハウス武蔵浦和開設
1993年４月　:ライフハウス浦和開設
1994年４月　:クラブハウス遊・友・悠開設
1994年11月　:ライフハウス浦和2開設
1994年12月　:ライフハウス所沢開設
1998年３月　:ケアルーム所沢開設
1999年12月　:ライフ＆シニアハウス港北開設
2000年７月　:ライフ＆シニアハウス緑橋開設
2001年１月　:ライフ＆シニアハウス緑橋2開設
2001年６月　:ライフ＆シニアハウス井草開設
2001年９月　:ライフ＆シニアハウス南浦和開設
2002年12月　:ライフハウス友だち村開設
2003年６月　:日暮里コミュニティ開設
2003年11月　:ライフ＆シニアハウス港北2開設
2003年12月　:ライフ＆シニアハウス神宮南井田開設
2004年3月　:ライフ＆シニアハウス千種2
2004年11月　:ライフ＆シニアハウス千種開設

2．事例紹介（さまざまなコミュニティの拠点）

3.全国でタイプの異なる「ゆいま～る」を実現

兵庫県神戸市（駅前再開発型）

ゆいま～る伊川谷

サービス付き高齢者向け住宅
■２００９年１０月 オープン
■総戸数：７５戸

栃木県那須町（環境共生・保養地型）

ゆいま～る那須

サービス付き高齢者向け住宅
■２０１０年１１月 第１期（１８戸）
　２０１２年　１月 第２期（５２戸）
■総戸数：７０戸

東京都日野市（団地再生・ﾘﾉﾍﾞｰｼｮﾝ型）

ゆいま～る多摩平の森

サービス付き高齢者向け住宅
コミュニティハウス
■２０１１年１０月　オープン
■総戸数：６３戸

東京都多摩市（団地再生・商店街活性・ｻﾃﾗｲﾄ型）

ゆいま～る聖ヶ丘

住宅型有料老人ホーム
■２０１１年１２月オープン
■総戸数：７０戸

東京都福生市（駅前再開発型）

ゆいま～る拝島

サービス付き高齢者向け住宅
外部特定施設入居者介護
■２０１３年３月オープン
■総戸数：４４戸

東京都多摩市
（医療連携・ﾄｰﾀﾙｹｱ拠点型）

ゆいま～る中沢

サービス付き高齢者向け住宅
■２013年３月オープン
■総戸数：５６戸

北海道・厚沢部町（過疎地再生型）

ゆいま～る厚沢部

介護付有料老人ホーム
■２013年５月オープン
■総戸数：２０戸

東京都板橋区（団地再生・空室活用型）

ゆいま～る高島平

サービス付き高齢者向け住宅
■２014年１２月オープン
■総戸数：３０戸

目次へ

４－１．多世代型コミュニティハウスとは

日暮里コミュニティ

●自立した高齢者の住まい（自立型：７～１１階）
一般居室のほか多目的室やゲストルームを各階に設置。
最上階には住まい手の希望により展望風呂を配置しました。

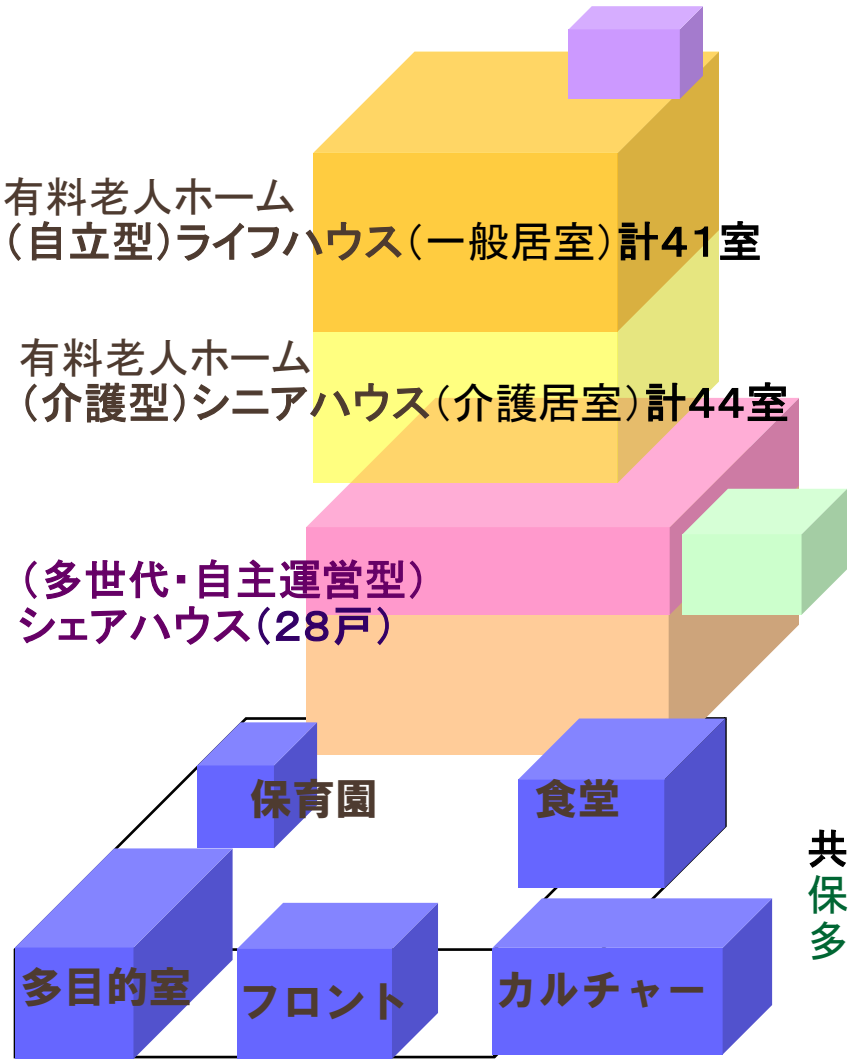
●介護が必要な高齢者の住まい（介護型：４～６階）
スタッフと入居者が生活を共にするユニットケアを初めて導入しました。

●自主管理の多世代住宅（シェアハウス：２～３階）
個人の独立した生活を確保しながら共に支え合うハウスです。食事、清掃などの運営や管理は居住者によって行われます。

●子育て・共用（保育園、カルチャー、食堂：１階）
ハウス内にクリニックをテナントとして組み込むことで入居者の生活を側面から支援。地域にハウスを開放する窓口ともなります

２００３年６月、荒川区の中学校
跡地に開設した初めての多世代
共生型ハウスが「日暮里コミュニティ」です。
従来の高齢者住宅に賃貸のシェアハウスが
加わりました。
保育園とカルチャーを併設し、赤ちゃんから
高齢者までが日常生活で関わり合う
コミュニティとなっています。

４－２．建物の構成



一般浴室

12階

7～11階

サークル室・トランクルーム・
ゲストルーム

食堂、健康相談室、介護浴室
サークル室、談話コーナー、
ショートステイ

4～6階

2～3階

共用食堂・厨房・リビング

1階

共用スペース
保育園・食堂
多目的室、カルチャー

５－１．官・民が連携した多世代型の福祉のまちづくり

国土交通省承認
住宅市街地整備
総合支援事業

建設工業新聞　2002年7月8日（関東版）

最優秀案に鹿島グループ

埼玉県、彩の国復興複合型住宅提案競技

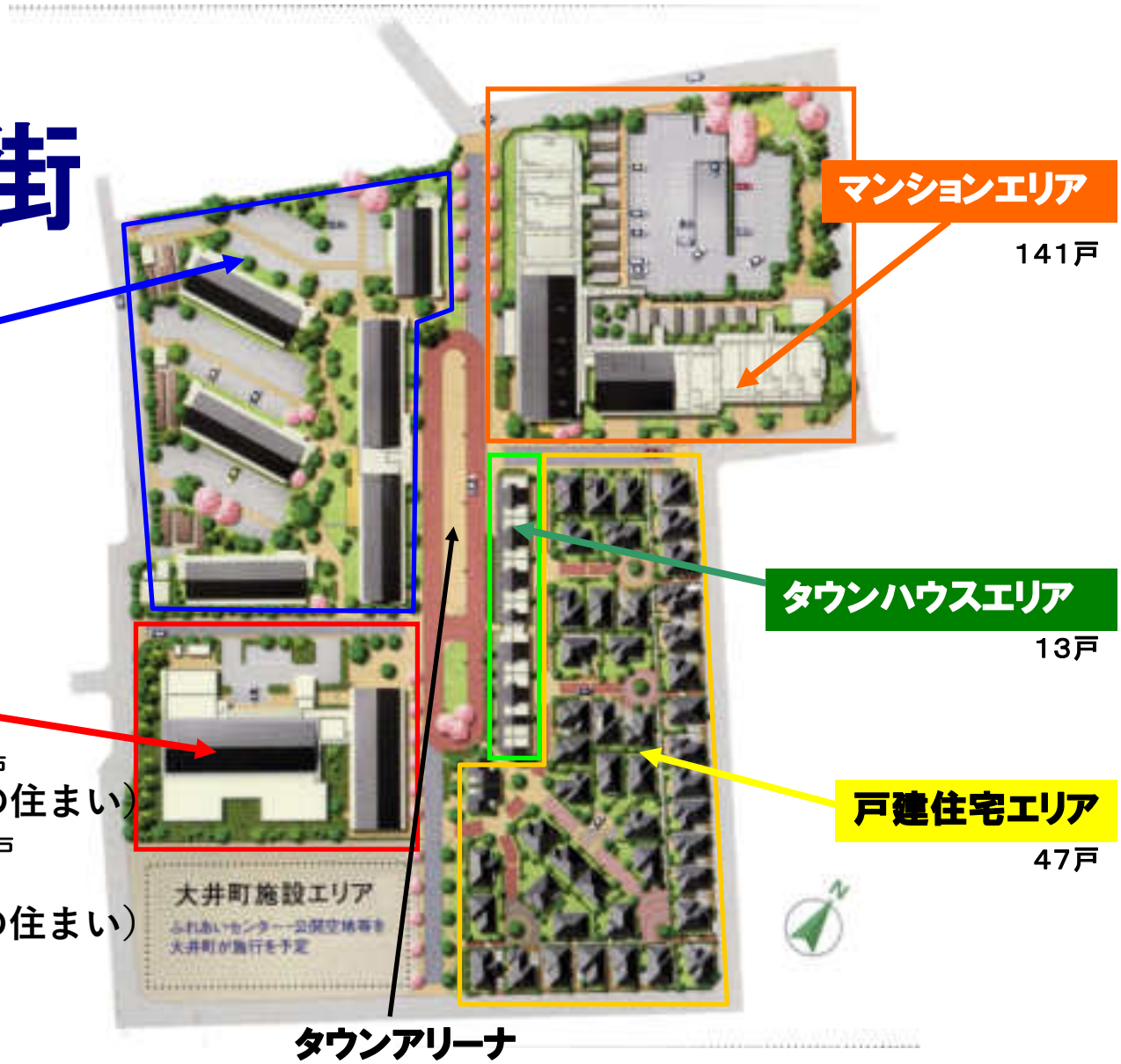
政策目標に合致した案

9月めどに選定確約

総敷地面積約3．6ha

５－２．七つの居住形態に多彩な住まい方がある街

七彩の街



県営住宅エリア

県営住宅：125戸

ライフ＆シニアハウス
川越南 七彩の街

生活福祉エリア

■**ライフハウス：**６０戸
（自立した高齢者の住まい）

■**シニアハウス：**３２戸
（介護が必要な
高齢者の住まい）

６－１ゆいま～る那須（栃木県那須町）

所在地	栃木県那須郡那須町大字豊原乙字那須道下627-115他
敷地面積	9,978.05㎡
建築面積	3,561.04㎡
構造規模	木造：　A棟1階建、B棟：2階建、C棟：1階建、D棟2階建、E棟2階建
総戸数	70戸
住戸専有面積 間取り	33.12m²～66.25m²、1R～2LDK
開設	１期：　2010年11月（18戸） ２期：　2012年1月（52戸）

※ 高齢者住まい法改正により、「適合高齢者専用住宅」を「サービス付高齢者向け住宅」として登録

【主な特徴】

- 里山、木のぬくもりのある戸建風建物
- 平成21年度　第1回高齢者居住安定化モデル事業選定事業(一般部門)に選定
- 働きながら暮らす、仕事づくり（居住者、地域住民）
- ゆいま～る那須倶楽部（別荘感覚で利用できる仕組み）
- 文化や音楽、交流を楽しめる図書室・音楽室・自由室
- 地域に開かれた「ゆいま～る食堂」（直営）
- 送迎車ゆいま～る号（入居者が寄贈）

目次へ

６－２ゆいま～る那須　＜雇用の創出、生きがいづくり＞

理容師

そば打ち職人

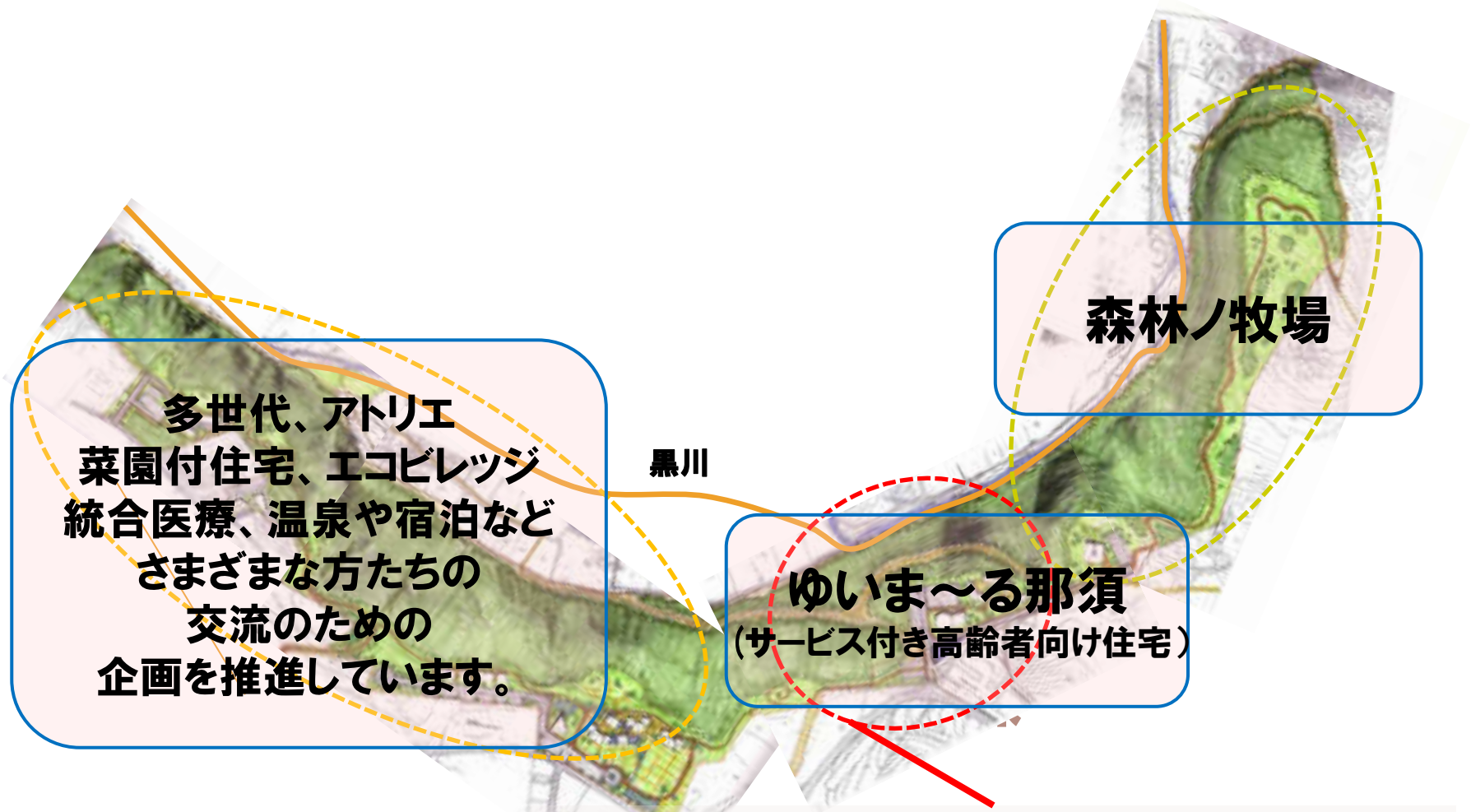
美容師

運転手

端材でおもちゃつくり（積み木づくり）

目次へ

６－３今後の展開：那須企画の全体構想



70世帯のサービス付き高齢者向け住宅(2012年1月開設）。

「自分らしく最後まで社会と関わりながら安心して暮らす」を実現するエリアです。

目次へ

7－1. 事例紹介:ゆいま～る多摩平の森（東京都）

所在地	東京都日野市多摩平3丁目1-6
敷地面積	4,625.69㎡
建築面積	1,431.82㎡
構造規模	鉄筋コンクリート造　壱番館・弐番館4階建
総戸数	63戸　（サービス付き高齢者向け住宅32戸） （コミュニティハウス31戸）
住戸専有面積 間取り	42.31m²、1K～2K
開設	2011年10月

※壱番館：コミュニティハウス、弐番館：サービス付高齢者向け住宅

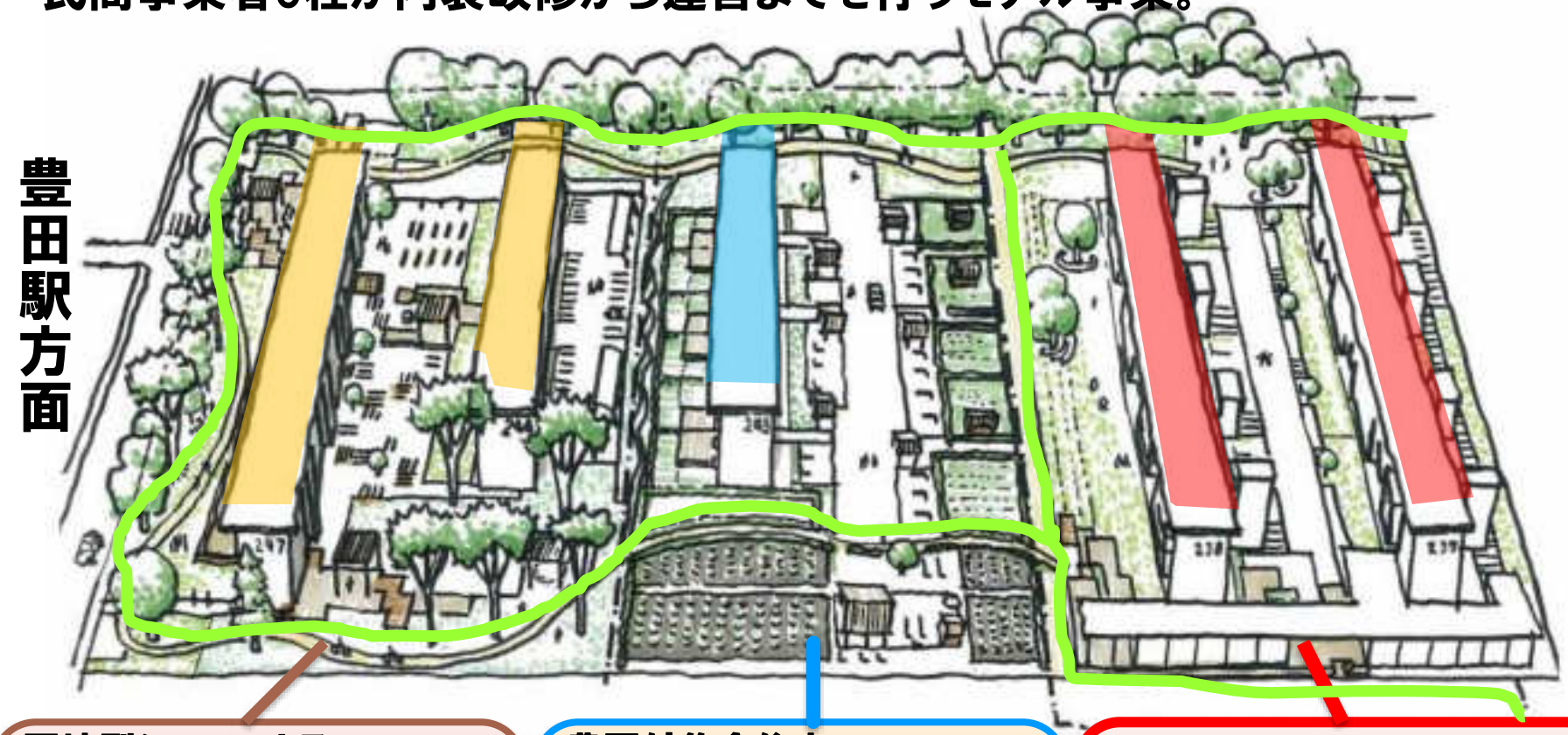
【主な特徴】

- 「ゆいま～る＋UR団地再生プロジェクト」と多世代が交流する暮らし
  （団地型シェアハウス（1棟）、農園付き集合住宅（1棟）、高齢者住宅棟（2棟、食堂・小規模多機能併設））
- 地元協力医との連携
- 小規模多機能「ぐり～んはぁと」を併設（直営）
- 地域に開かれたゆいま～る食堂は「非営利市民事業Beすけっと Cook」が運営
- 多目的室でコンサートやセミナーなど開催。書架も充実

目次へ

7－2ゆいま～る多摩平の森　＜空き団地の1棟ごと活用＞

URルネッサンス計画：URの築50年の団地を民間事業者へスケルトン賃貸し、民間事業者3社が内装改修から運営までを行うモデル事業。



団地型シェアハウス
りえんと多摩平
・若い社会人
・近隣に通う学生
東電不動産㈱

農園付集合住宅
AURA237多摩平の森
・アクティブシニア
・子育てカップル
たなべ物産㈱

ゆいま～る多摩平の森
・サービス付き高齢者向け住宅
・コミュニティハウス
㈱コミュニティネット

7－3. ゆいま～る多摩平の森　＜空き団地を1棟ごと活用＞

リノベーション前

リノベーション後

食堂・多目的室

書架

居室内

目次へ

８－１．事例紹介：ゆいま～る高島平（東京都）

所在地	東京都板橋区高島平2-26-2号棟内
敷地面積	5,059.42m²（UR賃貸住宅等含む）
建築面積	1,051.33m²（UR賃貸住宅等含む）
構造規模	鉄筋コンクリート造　１１階建て　＊耐震改修済み
総戸数	30戸
住戸専有面積 間取り	42.34m²～43.51m²、１DK～１LDK
開設	2014年12月

※ サービス付高齢者向け住宅

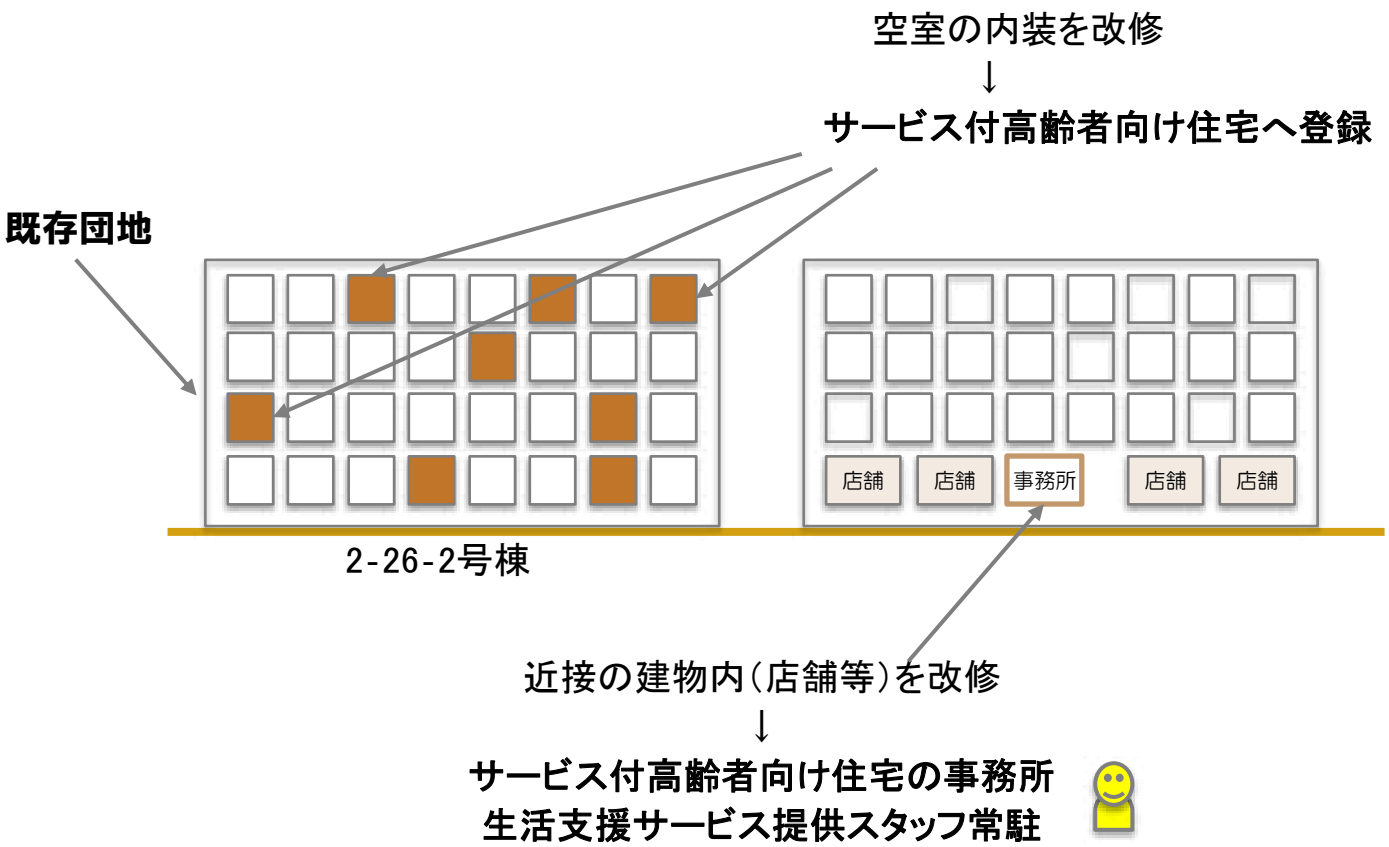
【主な特徴】

- 既存団地の空室を活用した分散型のサービス付き高齢者向け住宅
- 店舗1つ改修し、スタッフ常駐管理室（フロント）を整備
- サービス付き高齢者向け住宅、団地住民へ生活支援サポート
- URより定期建物賃貸借契約（20年）のサブリース方式

目次へ

8－2. ゆいま～る高島平　＜団地に点在した空室の活用＞

① 26街区の既存空室30戸改修し、サービス付き高齢者向け住宅を整備
② 近接の建物内に、スタッフ常駐事務所（フロント）を整備



佳節萬事

善解能容 和而不同
白云庄社区议事厅

としま・まちごと福祉支援プロジェクト
都市再生

豊島区の方針

協会とは、簡単な自己紹介（リーフレットで簡単に口頭説明）

豊島区の目指す、高齢者にやさしいまちづくり

「社会的孤立ゼロ」
「100歳健康」
「一人暮らしでも安心」
「医療専門団体との連携」
「選択的介護モデル事業」
「障害者の社会参加の機会」

令和2年　区長のあいさつhttps://www.city.toshima.lg.jp/001/2003051102.html

コミュニティネットワーク協会は、上記を目指し、
共生ハウス、共生サロン、地域包括ケア、セイフティネット
住宅を進めています。

取り組んでいるのは３つです。

①「空き家活用」

家賃を下げる

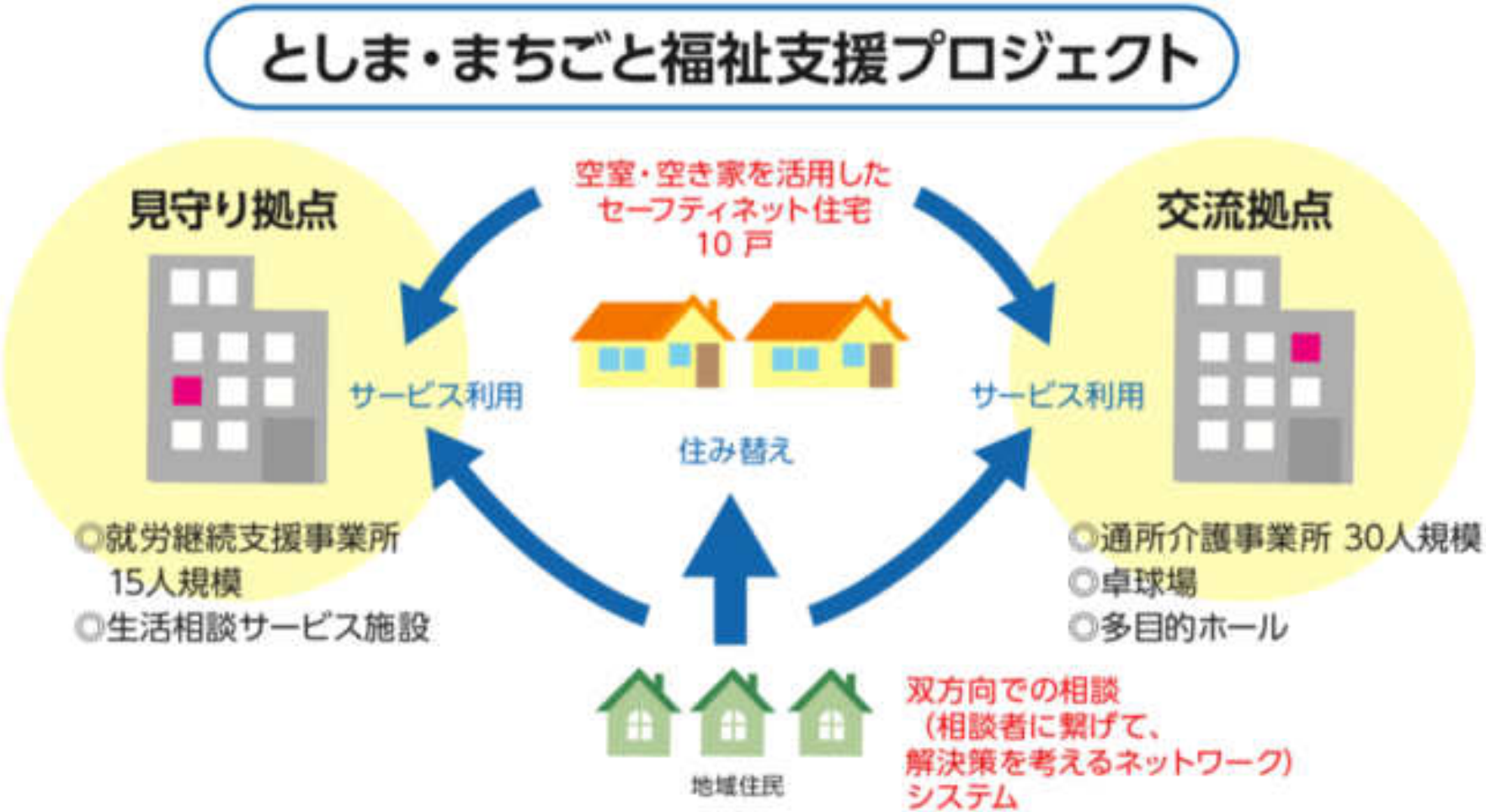
②「セーフティネット住宅」

居住支援の仕組み

③「交流拠点（居場所）づくり」

デイサービス、就労支援事業、
相談事業、食堂、文化発信基地

全体構想図


としま・まちごと福祉支援プロジェクト
見守り拠点
空室・空き家を活用した
セーフティネット住宅
10 戸
交流拠点
サービス利用
サービス利用
住み替え
◎就労継続支援事業所
15人規模
◎生活相談サービス施設
◎通所介護事業所 30人規模
◎卓球場
◎多目的ホール
地域住民
双方向での相談
（相談者に繋げて、
解決策を考えるネットワーク）
システム

空き室を交流拠点に「共生サロン」：日替わりサロンの開催

日中は地域で活動する方が日替わりでサロンを開催し、地域の居場所にしています。

火曜：麻雀

水曜：鍼灸

金曜：ネイル

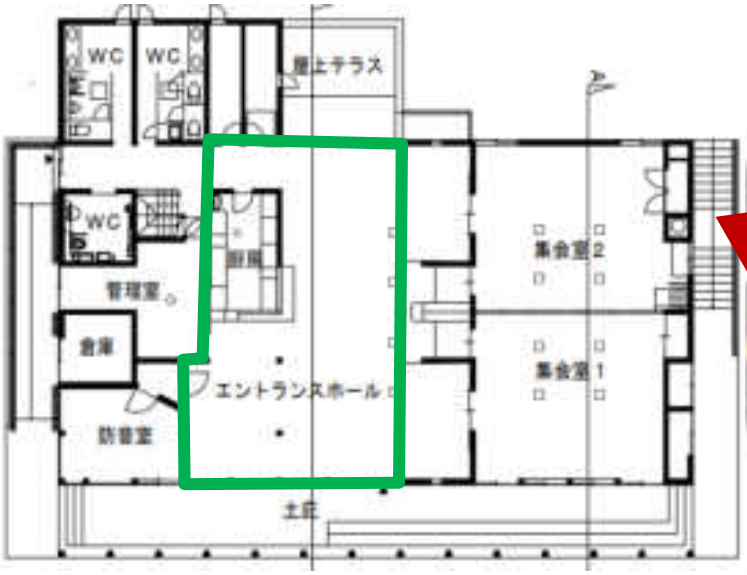
土曜：卓球

月曜サロン：シニアのための携帯電話（スマホ）講座
火曜サロン：麻雀（初心者から上級者まで）
水曜サロン：Smile Salon 東洋医学講座・鍼灸等で
自己治癒力を高める（治療もできます・要予約）
木曜サロン：介護ラボしゅう trip space
金曜サロン：ときめき未来カフェBeauty塾
（ネイル・椅子ヨガ・スキンケアなど楽しく美しく）
土曜サロン：卓球カフェ（初心者向け）

夜は持ち寄り
お互いさまサロン

交流拠点2構想　公共の建物の空いている空間を活用

南池袋の交流拠点から徒歩13分に位置する、
公園内に防災の拠点として整備された、豊島区の建物の空いている空間を活用して就労継続支援事業所を開設予定。
厨房設備と広いエントランスホールにてとしてレストランを開き、雇用や居場所を創出する。
今後、防音室や集会室を利用し、文化活動の場としても幅を広げる予定。



1階平面図

雑司が谷公園配置図

エントランスホール

厨　房

それは、池袋駅から徒歩13分、
一等地にある築35年の一戸建てです

西池袋3丁目。立教
大学バス停の前です

空き家をセーフティネット住宅に「共生ハウス」

1棟の空き家を4戸のシェアハウスに改修し、支え合いのある住まいにしています。

家族の役割～居住支援協議会と連携した総合支援

課題		解決
不安・困りごと ・民間賃貸オーナー ・高齢者世帯 ・障がい者家族 ・生活困窮者　等		**連携体制** ・交流拠点 ・豊島区住宅課 ・豊島区居住支援協議会 ・居住支援法人 ・地域の福祉ネットワーク
暮らし・住まいの不安	→	相談・情報提供
倒れたとき、具合が悪い	→	安否確認・緊急時対応・ケア
亡くなったとき	→	後片づけ、葬儀手配等
家賃滞納、他	→	保証人

那須まちづくり広場事業構想
多様性を受容する共生型コミュニティの暮らしの創造

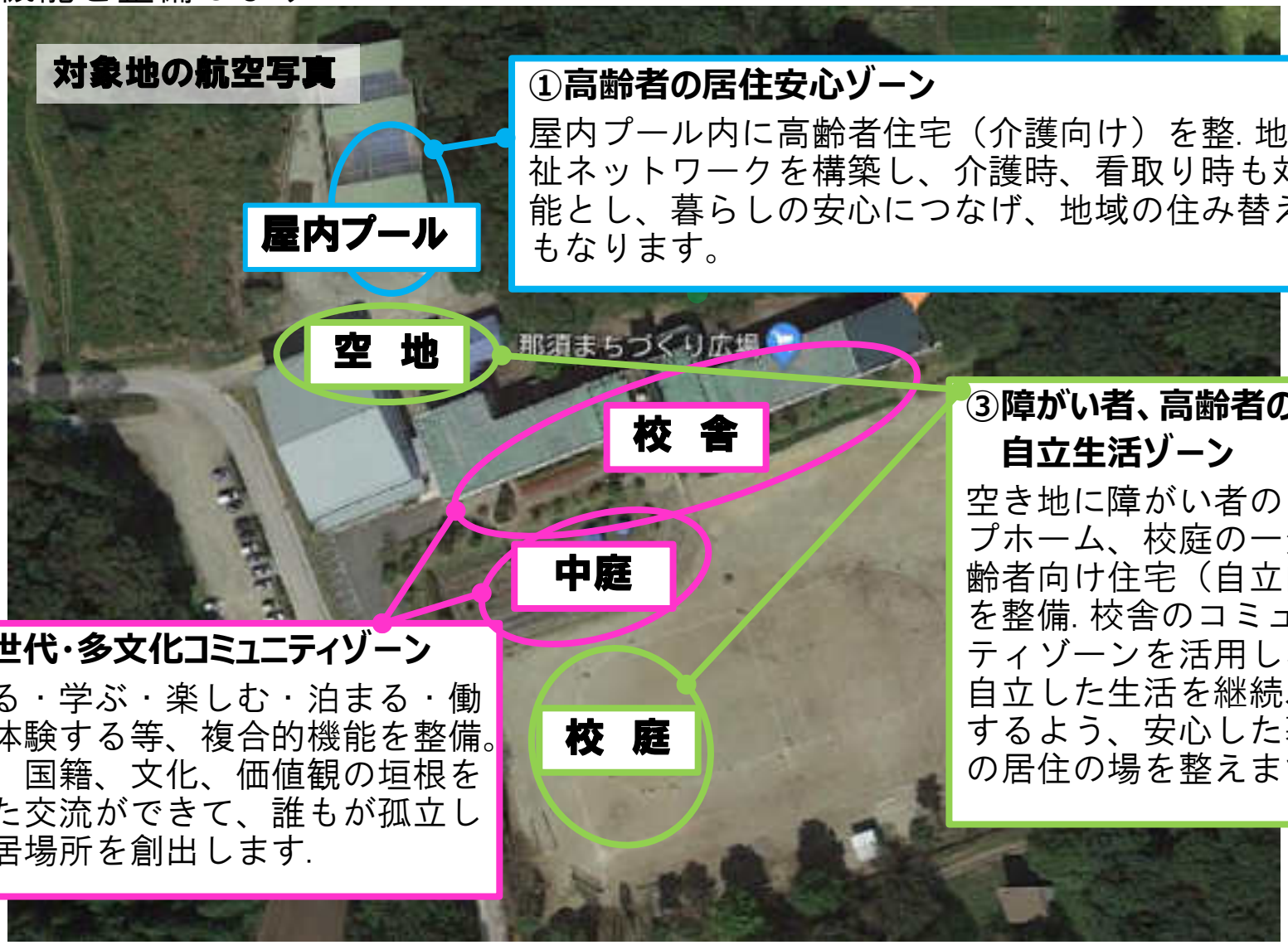
2019年9月

代表提案者：那須まちづくり株式会社
共同提案者：一般社団法人コミュニティネットワーク協会
NPO法人ワーカーズコープ
ワンランド株式会社

※資料内の写真は提案者等より提供.イメージです.

事業全体の概要１（全体構想）

廃校の資源であるゆとりある空間（屋内プール、校舎、校庭）を活用し、地域の抱えている課題とともに都市部で抱えている課題の解決につながる暮らしに必要な機能を整備します.



①高齢者の居住安心ゾーン

屋内プール内に高齢者住宅（介護向け）を整. 地域n福祉ネットワークを構築し、介護時、看取り時も対応可能とし、暮らしの安心につなげ、地域の住み替え先にもなります。

②多世代･多文化コミュニティゾーン

食べる・学ぶ・楽しむ・泊まる・働く・体験する等、複合的機能を整備。世代、国籍、文化、価値観の垣根を超えた交流ができて、誰もが孤立しない居場所を創出します.

③障がい者、高齢者の自立生活ゾーン

空き地に障がい者のグループホーム、校庭の一角に高齢者向け住宅（自立向け）を整備. 校舎のコミュニティゾーンを活用しながら、自立した生活を継続、維持するよう、安心した暮らしの居住の場を整えます.

事業全体の概要２（整備する機能）

世代に関わらず暮らしに必要な要素

分け隔てなく、誰もが安心して暮らせる住環境

改　修

②多世代・多文化コミュニティゾーン

お試し住宅（短期宿泊）
セーフティネット住宅（シェアハウス）

食事・交流・子どもの居場所
就労事業所・デイサービス

改　修

①高齢者の居住安心ゾーン

・高齢者住宅（看取り対応）
・訪問介護

新　築

③障がい者の自立生活ゾーン

障がい者のグループホーム

新　築

③高齢者の自立生活ゾーン

高齢者住宅（自立向け）

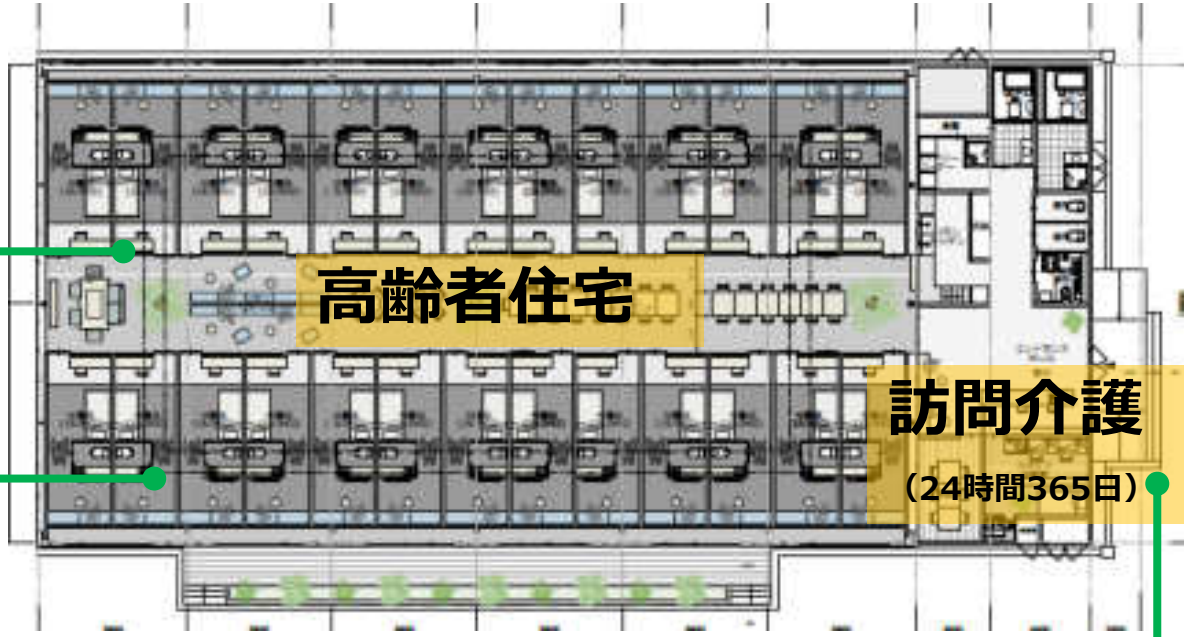
屋内プール　空地　校舎　中庭　校庭

先導性・創意工夫

屋内プールを廉価で良質な高齢者住宅に転換！

屋内プールを廉価で良質な高齢者住宅に転換！

　農業などを営んできた町の住民の多くは**国民年金層**. 年金で生活の維持が難しい高齢者はもちろん、非正規雇用者、障がい者、ニートなどの**生活困窮者**予備軍が高齢者になったときに入居できる価格帯及び看取りまで対応できる住宅は皆無. **地域の生活水準や暮らしのニーズを満たす住環境**を整える.



　24時間365日体制の訪問介護を整備. 訪問看護と連携し、**切れ目のない緊急時対応、生活支援、介護・看護・医療体制**を整える. 高齢者住宅のみならず、**全体の入居者、利用者**の万一の対応も担い、居住の**安心**に繋げる.

ぜんぶがみんなのデイサービス

全ての空間をできるだけ開放し、「生活リハビリ」の視点を取り入れた 100のプログラムメニューを用意。子育て世帯、障がい者、高齢者等、誰でもどこでも参加、関わり合いの中でこころと体の健康を目指す. 同時に、誰もが支援される側にも、支援する側にもなれる.

こどもの居場所・支援

企画展・セミナー・学習会の開催

高齢者の介護予防・支援

ぜんぶがみんなの働く場

全てを開放し、子育て世帯、障がい者、高齢者等、誰でもどこでも働く場になり、役割があり、居場所がある.

コミュニティロックダウン対応型ニュータウン

拠点団地による団地プロデュースの仕組み化

1. 多摩ニュータウンにおける課題と本事業の目的

現状課題

① ニュータウンにおける人口停滞と少子高齢化。
② 地域内のコミュニティの希薄化。高齢の孤立と見守り機能の不足。
③ 若年転出者の増加と地域の担い手不足。
④ 地域内施設の需要縮退。
⑤ 「単体」としての空き家活用の限界

あるべき姿・理想

① 「暮らす」ニュータウンから「住み、働き、学び、遊ぶ」ニュータウンへ再編する。
② 相互扶助を生活の一部として位置づける仕組みを提供する。
③ 持続的、効果的な社会活動を促進するための人財育成を実施する。
④ 地域空き資源単体での解決ではなく、連鎖的再編を行う。
⑤ 予防の視点を持つ。

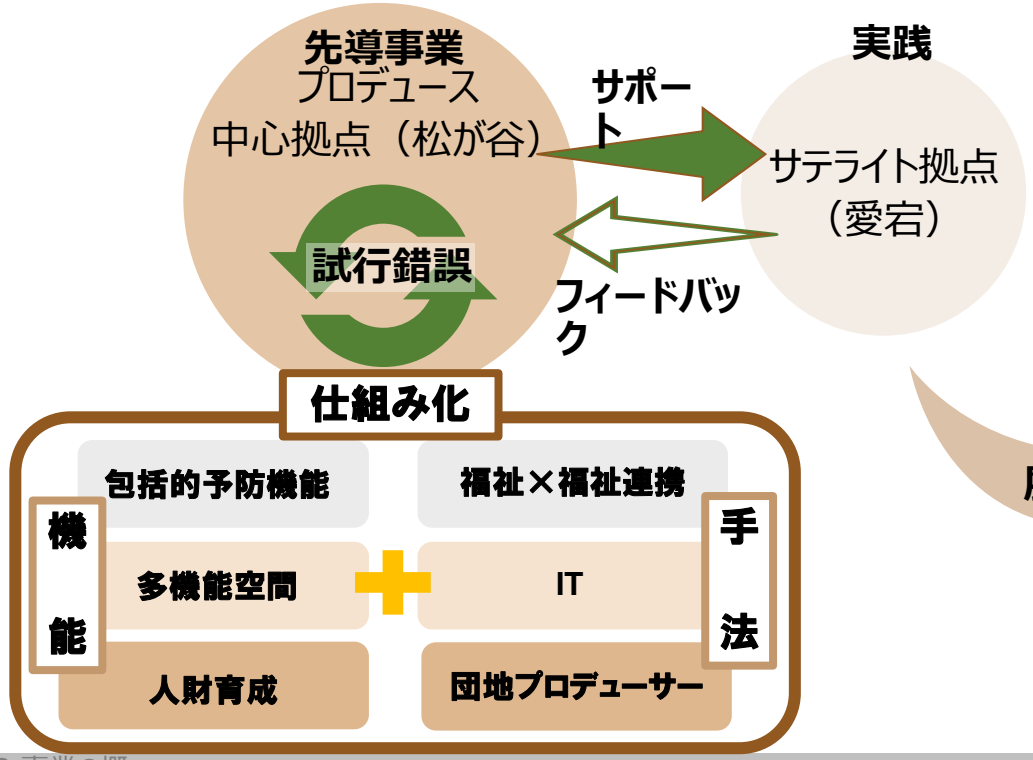
「介護や医療に罹らずずっと元気でいるための策を打つ」「団地の問題が深刻化しない

新型コロナや災害にも揺るがない自己完結型地産・地消の
「コミュニティロックダウン対応型ニュータウン」への再編が必要である。

2. コミュニティロックダウン型団地再生の担い手は、団地プロデューサー

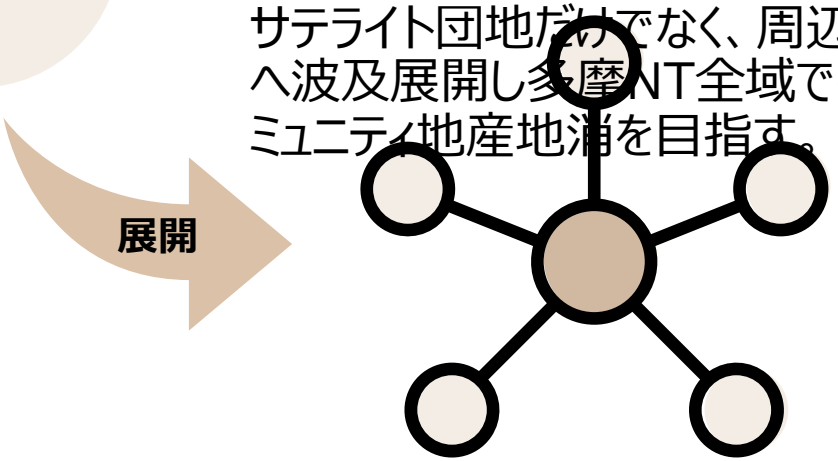
STEP1　近隣センターには、地域のお困りごとを拾い上げ、多様な主体と連携し解決のための仕組みを作る団地プロデューサーを配置。

STEP2　松が谷地区で構築した仕組みや技術を愛宕地区でサポートし、フィードバックを行う。



STEP3

サテライト団地だけでなく、周辺地域へ波及展開し多摩NT全域でのコミュニティ地産地消を目指す。

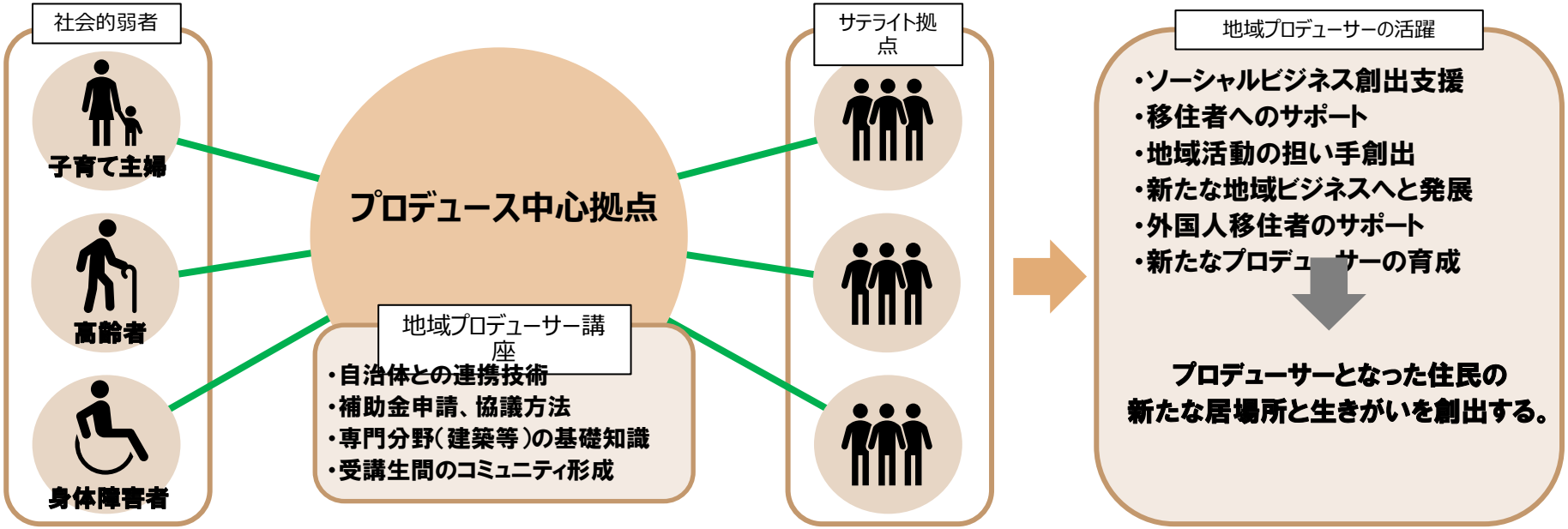


3.団地プロデューサーの育成

■団地プロデューサーの育成講座

・プロデュース中心拠点にて地域の主婦・高齢者・学生等を対象にプロデューサー講座を実施。

・サテライト拠点にもプロデューサーを配置し、相互連携を図りながら地域課題を解決する。



４.新しい仕組みを支えるITの活用

福祉の産直を支えるマッチングシステム、予約システムの構築

相互扶助のポイント化

WEB掲示板（Piazza)での地域コミュニティの補強

イベントの発信、物々交換告知、困窮者の見守りと問題の早期発見などをWEBでも行い、アナログなつながりを補強する。

多少な情報ツールで施設の機能を地域に浸透

施設に出入りする人に呼びかけ、フェイスブック、インスタグラム、HP、場所に設置された掲示板、口コミなど多様な告知媒体を駆使し、地域に周知・浸透させる。

IT事業者が移住したくなる魅力づくり

住宅の確保、他の事業者とのマッチング、痒い所に手が届く保育・育児サービスの提供など、IT事業者が移住したくなる魅力をつくる。

5.建築計画の工夫①

①街のイメージを資する外観デザイン

各拠点がまちの交流の中心となるためには仕組みや機能だけでなく、**魅力的な外観デザイン**を採用することで、**愛着があり行きたくなる場所を創出**する。

イメージ写真（出典：左近山みんなのにわ）

②サインデザイン（街の看板・案内板）

街の利便性を高め、より魅力的な地域にする事を目的とし、**デザインされた案内板や看板**を各拠点や街中に設置し、**高齢者や転入者でも快適な街を創出**する。

イメージ写真（出典：▲TUGBOAT TAISHO ▶東京都現代美術館）

6.建築計画の工夫②

③DIYによるプロセスデザイン

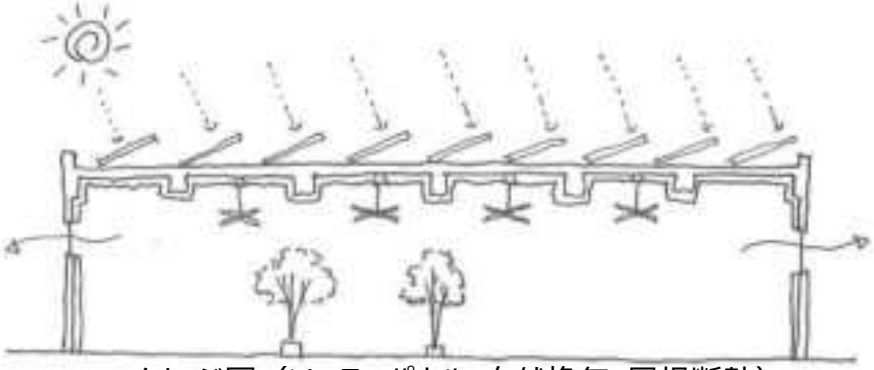
拠点の工事を可能な限り、周辺住民などの有志により専門家のサポートのもとで**DIY作業で作り上げ、施設オープンや入居までの過程の中で愛着づくりを行う**。

イメージ写真（出典：近畿大学あきばこ家）

④設備の充実（ソーラーパネル・屋根断熱・自然

ソーラー発電や屋根断熱、自然換気などの設備計画により、利用者の**快適性と緊急時の省エネ対応を可能と**する。

イメージ写真（◀ソーラーパネル▲屋根断熱▶自然換気）



イメージ図（ソーラーパネル・自然換気・屋根断熱）

７－１.松が谷地区の計画 施設構成・コンセプト①

空間全体を一体的に使用できる計画とし、境界を曖昧にすることで、時間による空間利用を可能とし、多世代が協働で利用できる施設を目指す。

プロジェクターにてセミナー

交流施設

・地域で活動する団体などの利用を可能とする。
・併設した健康増進施設やその他施設との連携したイベントを企画、開催する。

インキュベーション

インキュベーション施設（人財育成の場）

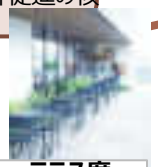
・地域コーディネーターの育成や起業家支援を目的としたセミナーを定期的に開催する。
・シェアワークスペースを展開し、利用者間コミュニティを促進する。

生活用品販売

障害福祉サービス事業

・隣接した食事サービス施設と連携した障害者の就労継続支援事業の中心となる取り組みを実践する。
・世代や障害の有無を問わず参加可能な企画や地域の福祉コミュニティ促進の核となる取り組みを実施する。

食事の提供

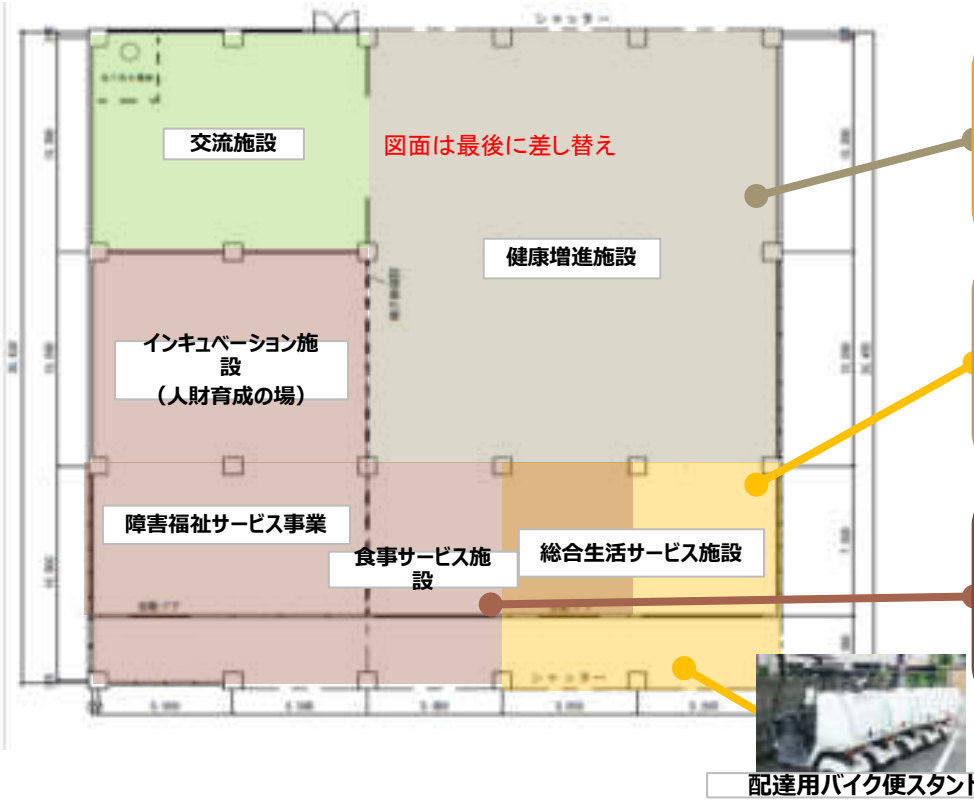


テラス席

テラスにて野菜販売

7－2.松が谷地区の計画 施設構成・コンセプト②

空間全体を一体的に使用できる計画とし、境界を曖昧にすることで、時間による空間利用を可能とし、多世代が協働で利用できる施設を目指す。



配達用バイク便スタンド

健康増進施設

・子供、障害者、高齢者まで年齢や障害の有無問わず心身の健康づくりと居場所とする。
・空間を開放して、大空間を利用した地域イベントを開催する。

総合生活サービス施設

・当施設のサービスや買い物支援の申し込み、ネットショッピングの受け取り代行を行う。
・子育て世代から高齢者まで日常生活や医療、介護に関する困りごとを相談できる環境を整える。

食事サービス施設

・カフェ、物販、キッズコーナーを一体で運営していく。
・子供達の新たな溜まり場を創出する。
・「食」「健康」「文化」をテーマにイベントの企画開催をしていく。

卓球台

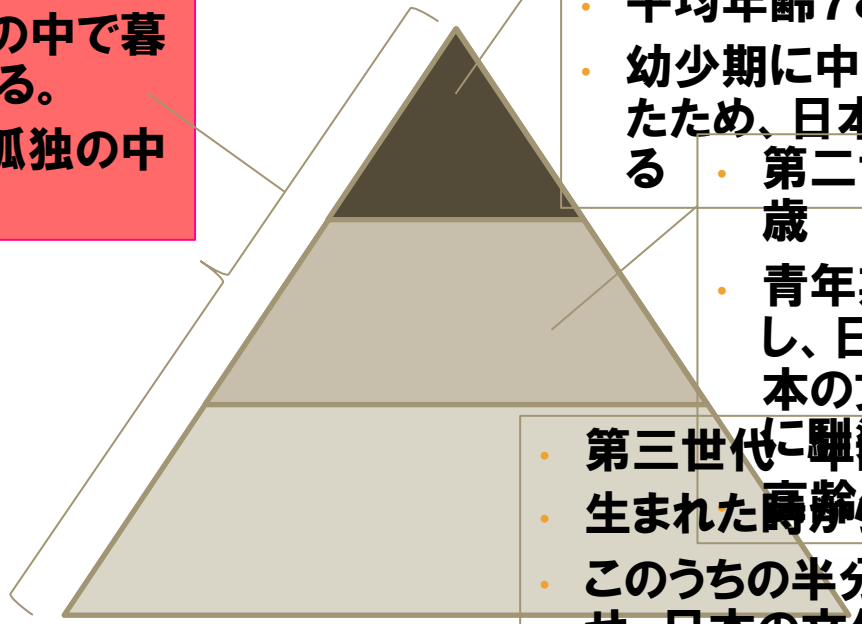
相談窓口

サロン開催

キッズコーナー

中国残留邦人が暮らす住宅と地域に開かれた医療施設と食堂の整備

- 中国残留邦人と2～3世（中国帰国者）は、大阪府に20万人以上いるとされる。
- 中国で取り残され、貧困の中で暮らした戦争の被害者である。
- 帰国してもなお、貧困や孤独の中で暮らしている。



- 中国残留孤児　約2万人
- 平均年齢78歳
- 幼少期に中国に連れて行かれたため、日本語はなんとか話せる

- 第二世代　年齢45～70歳
- 青年期まで中国で暮らし、日本語が話せず、日本の文化・風習・食生活に馴染みがない
- 高齢化中である。

- 第三世代　年齢25～45歳
- 生まれた時から日本にいる。
- このうちの半分は、日本語が話せ、日本の文化・風習・食生活に馴染みがある。

- 中国帰国者を頼って留学する中国人技能実習生が、日本の生活ルールを知らずに入国し、トラブルを起こしてしまう。
- これは中国人だけでなく、日本に来る外国人全てに当てはまる。

外国人技能実習施設を開講

デイサービスセンター、訪問介護、ケアプランセンター、訪問看護を立ち上げる

八尾市役所で中国人支援の相談員として業務にあたる。

中国残留邦人の親族とともに日本に来る

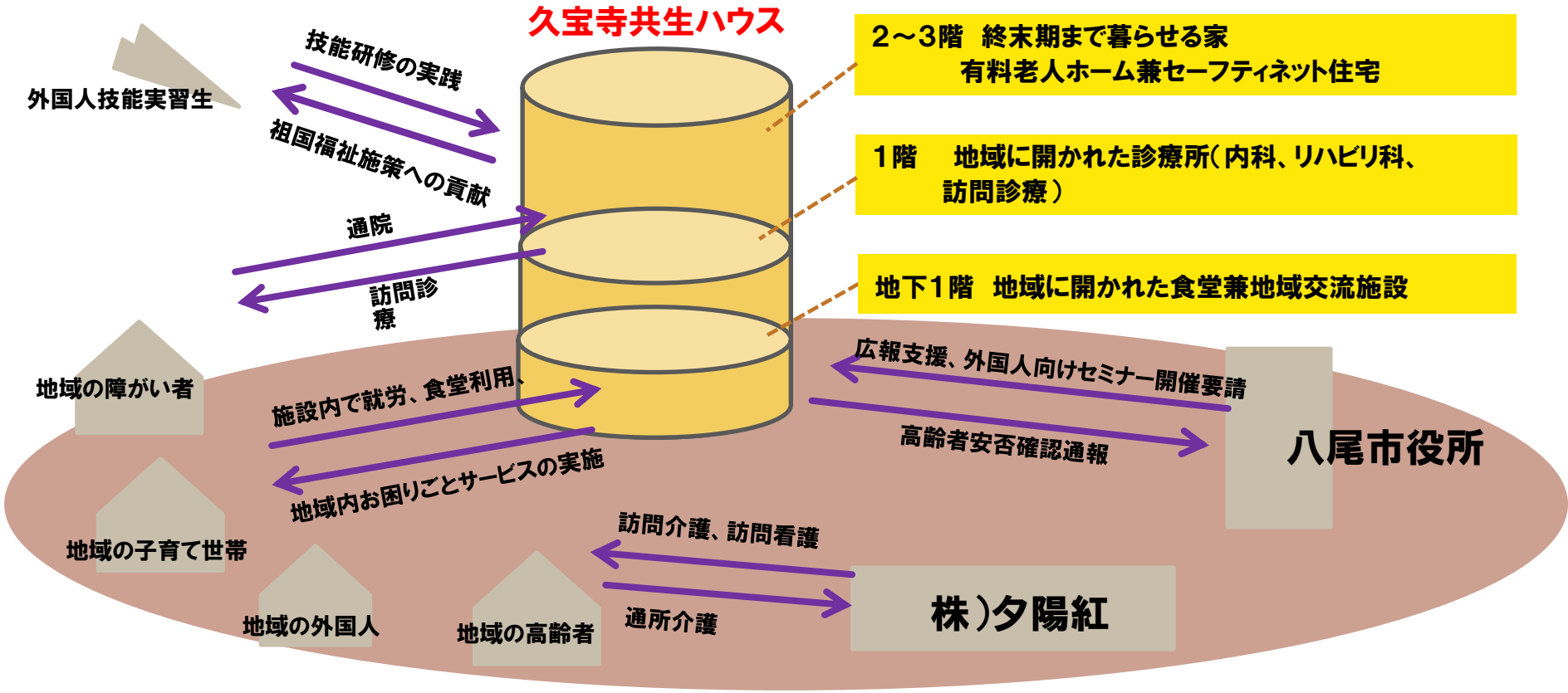
- 中国帰国者が高齢化し、日本に馴染めず孤独の中にいる。
- 介護支援が必要な中国帰国者向けに、中国語が話せ、中国料理を作ることのできる介護者が全くいないことに気づく。

久宝寺共生ハウスを整備（予定）

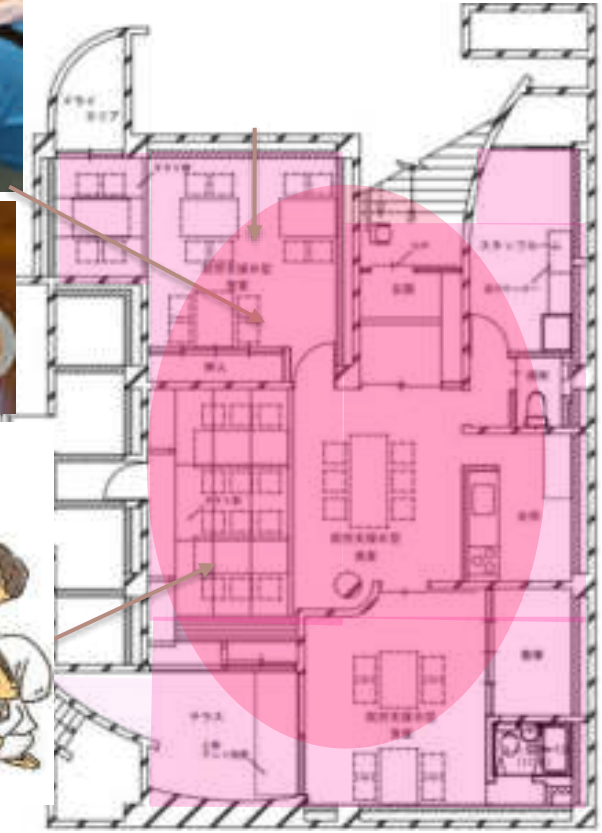
先行して有料老人ホームを

９月開業予定。すでに８名が待機。

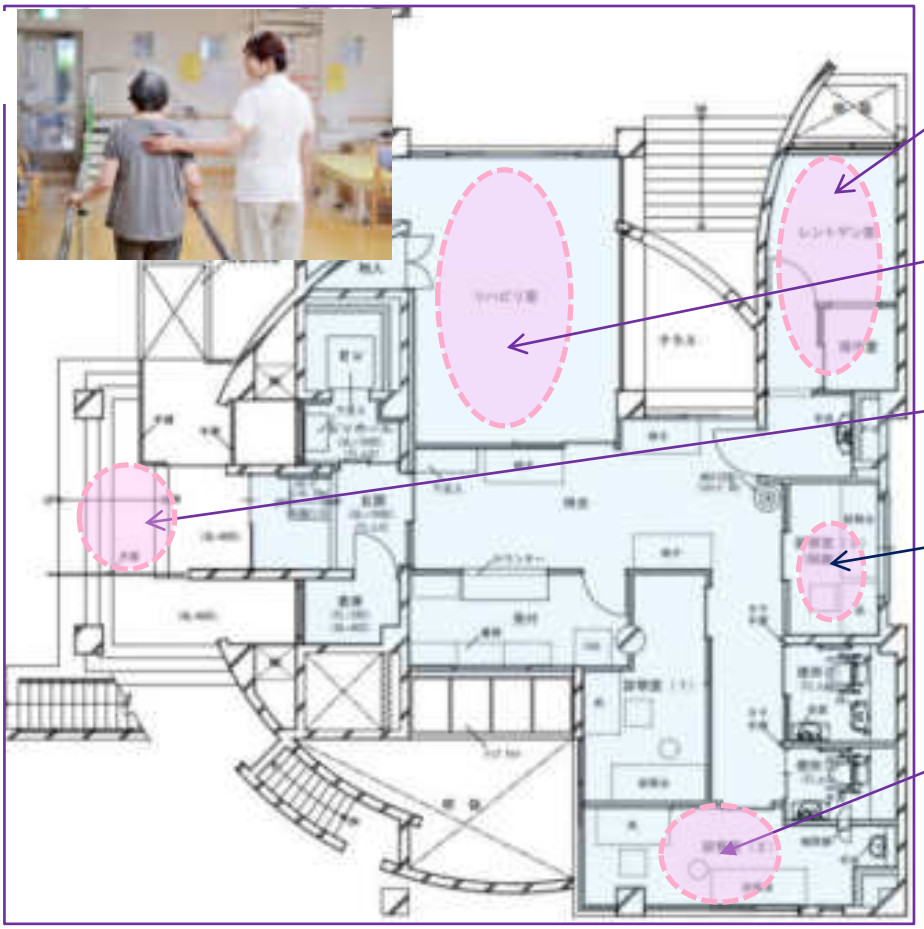
- 中国帰国者が一層高齢化し、在宅では住めない人も。
- 孤立を解消するには、国籍や年齢、価値観を超えて集える場を作りたい。


久宝寺共生ハウス
2～3階　終末期まで暮らせる家
有料老人ホーム兼セーフティネット住宅
1階　地域に開かれた診療所（内科、リハビリ科、訪問診療）
地下1階　地域に開かれた食堂兼地域交流施設
外国人技能実習生
技能研修の実践
祖国福祉施策への貢献
通院
訪問診療
地域の障がい者
施設内で就労、食堂利用、
地域内お困りごとサービスの実施
広報支援、外国人向けセミナー開催要請
高齢者安否確認通報
八尾市役所
地域の子育て世帯
地域の外国人
地域の高齢者
訪問介護、訪問看護
通所介護
株）夕陽紅

- 就労継続支援B型を使った食堂。
- 入居者、障がい者、地域の人が集う食堂。
- 中国帰国者のニーズに対応し、厨房では野菜をふんだんに使った中国家庭料理や和食を用意。
- 就労継続支援B型では、食材の下ごしらえやテイクアウトの配膳、パッキングなどを行う。



- 庭では、障がい者や高齢者が剪定や除草などを行う。
- テイクアウト屋台では障がい者や高齢者が中華総菜、地元の野菜を販売する。
- 食堂以外では市役所や地域と連携し、セミナーや趣味活動の場として活用。**防災避難、新型コロナ時の注意点など重要行政情報については、八尾市と連携し、中国語の翻訳がついたセミナーを開催。**
- **中国帰国者の介護・福祉・生活相談窓口とする。**
- 障がい者の仕事は、ハウス内にとどまらず地域のお困りごとサービスを行う（洗濯サービス、庭の維持管理など）

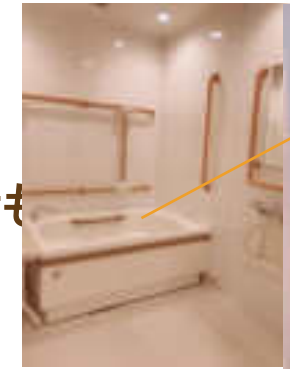


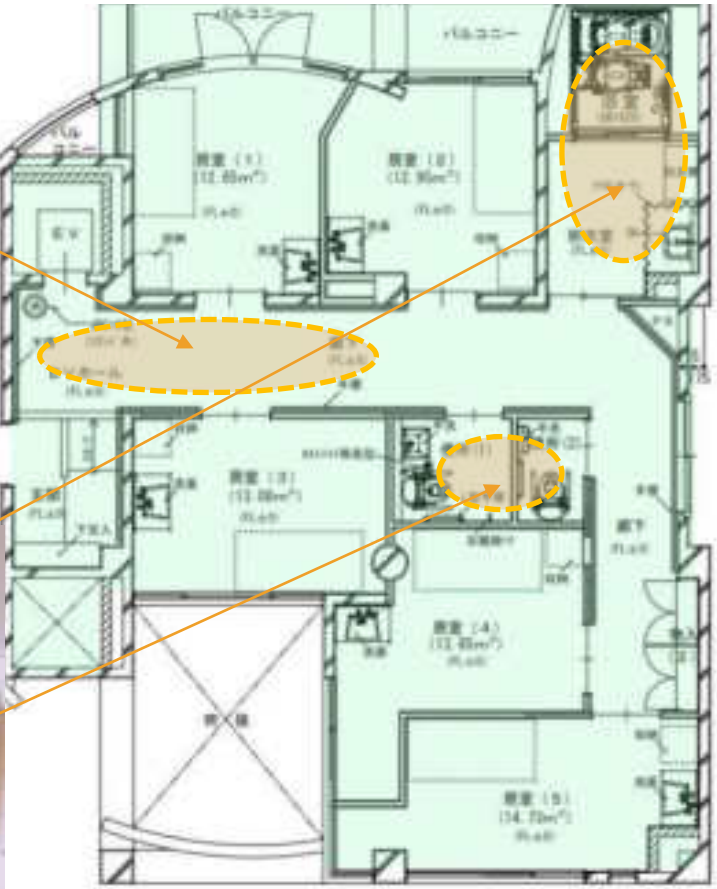
- 高齢者に必要となる内科、糖尿専科、リハビリテーション科（整形外科は調整中）
- リハビリテーションスペースは、窓を大きく明るい雰囲気。
- 高齢者、障がい者も使いやすいように、入り口には車椅子昇降機を設置。
- 感染拡大を防ぐため、インフルエンザ等に対応した隔離した診察室を併設。

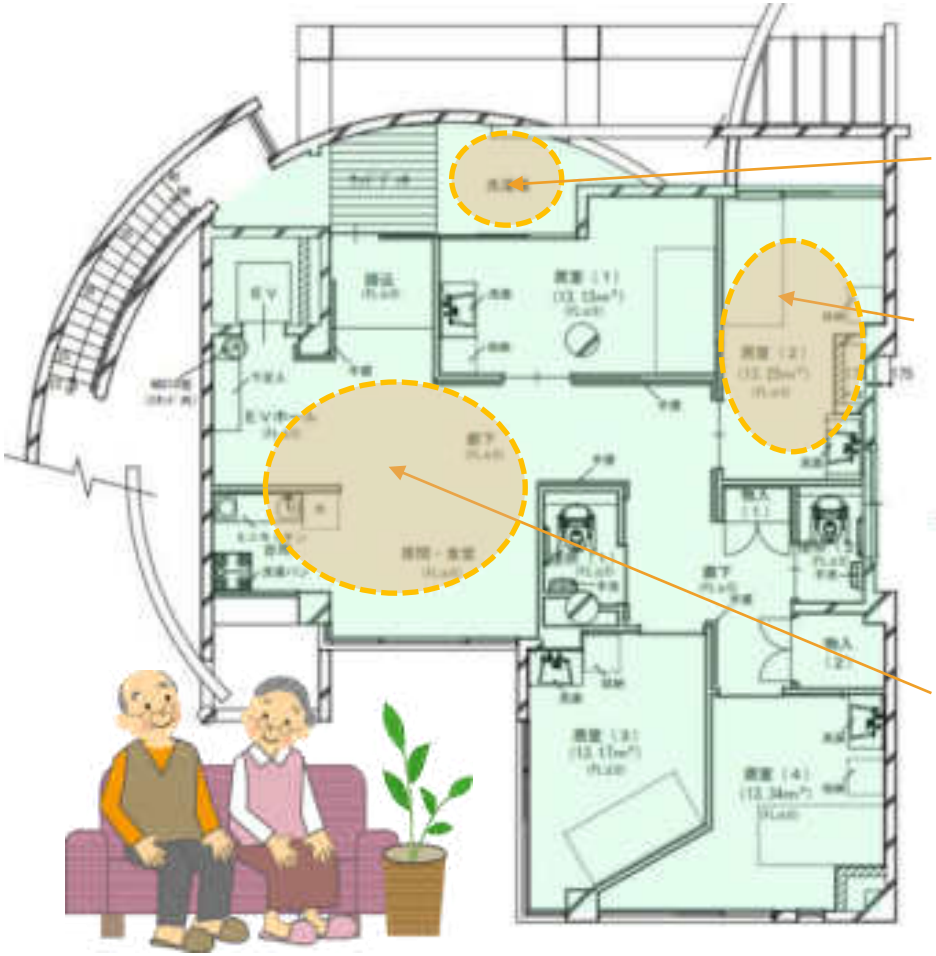
- 診療所では、コロナ下ではオンライン診察も対応可能。
- 高齢者・障がい者などには訪問診療も行う。

個々の今までの暮らしを尊重し、自分の生活スタイルをできる限り維持できるようにする。

- 2階は5戸の住戸とトイレ、浴室、広々した廊下
- 自宅での介護サポートだけでは難しくなった中国帰国者が安心して終末期まで暮らせる
- 負担を少なく、できる限り低廉な家賃
- ゆったりしたトイレは、使いやすく車椅子でも使用可能
- 浴室は、重度の被介護者もゆったり入浴可能







- 3階は4戸の住戸と共同空間
- 自分の洗濯物は自分で干して、たたみたい。
- 個室には全て洗面台を設置。好きなときに歯を磨いたりおめかししたり。スペースもゆったり13㎡の広さを確保。

- みんなの居間では、おしゃべりしたり歌を歌ったり、コーヒーを入れたり。集まって住む楽しさを感じて暮らす